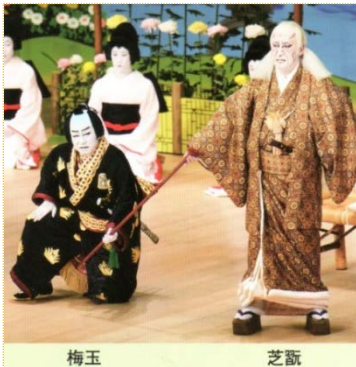


(第94回) 歌舞伎「吉例顔見世大歌舞伎」

11月20日歌舞伎座「夜の部」

今年の最後を飾る歌舞伎観劇に参加された方の大多数は幸四郎と染五郎の親子獅子を観に来られたのではないかと思います。第二幕の連獅子はこの後、充分にご報告致しますのでお楽しみに！！

1. 第一幕はご存知「鬼一法眼」の物語です。鬼一法眼



梅玉 芝翫

は元々源氏の流れを汲む侍として源為義、義朝に仕えておりましたが、平家の勢いが盛んになるにつれて平家に鞍替えしたご仁です。有名な六韜三略は鬼一法眼家に伝わる秘伝の巻ですが源氏に大将の

器と目される子孫が出てくれば秘伝を伝えると云う背景があります。さて物語としては源氏の御曹司として、歴史的に有名が源九朗義経（梅丸）が六韜三略を奪い返す為に法眼邸に出入りしているストーリーですが此のあたりは、我々が昔読んだ源平盛衰記や義経記に出てくる義経とは大分異なる感じがありますが、之は歌舞伎の世界と歴史小説との違いであろうと思われま。鬼一法眼扮する芝翫（三田寛子の主人）や梅玉扮する奴、知恵内（梅玉）を中心に狂言回しが全編に流れる時代狂言の傑作と云えます。

2. 第二幕は本日の眼玉演目とも云える「連獅子」の舞



染五郎 幸四郎

です。幸四郎と染五郎親子の舞は歌舞伎の本流と誰しもが認める演題と云えます。獅子と云うのは中国固有の獣を指しますが、実際にはライオンと同じ様に子獅子を谷に突き落とし強い子

獅子のみを育てるストーリーになっています。舞台

は松本幸四郎演じる親獅子、市川染五郎扮する子獅子を中心に脇役としての中村萬太郎、中村亀鶴の遣り取りも織り込まれて進行して行きますが矢張り最大の見所は親子で演じる連獅子、特に後半の紅白の左右に激しく振る場面は圧巻でしょう。更に杵屋勝四郎以下の唄、杵屋勝七郎以下の三味線が全編に流れ勇壮、かつ華やかな舞台を盛り立てております。

3. 第三幕は時代劇小説で有名な池波正太郎の原作に基づき、昭和後期に初演された「時代劇歌舞伎」作です。池波正太郎と云えば食通でも有名で、神田のまつや蕎麦には嘗て池波正太郎が来店すると必ず座っていた席が今でも残っている位です。日本橋の大手呉服商の一人娘お千代（中村時蔵）と主人重右衛門（市川団蔵）の後妻の娘お雪（中村梅枝と）の間で跡目争いが物語の中心です。お千代は女ながらに



市松小僧の又吉…藤治郎



お千代…時蔵

武道に励んでおり掬り仲間痛めつけられていた仙太郎を助け、同じ掬り仲間である又吉（中村雁次郎）を倒す経緯を経て又吉はお千代に想いを馳せる事になります。やがてお千代と又吉は夫婦となり、小間物屋を営むこととなりますがお千代の父親である重右衛門も心配して、観察に来ますが二人の様子をみて安堵して帰って行き二人の仲は益々愛情濃やかな物になって行くと云う結末です。池波作品の江戸庶民の生活を十分に具現した、楽しい時代物の一幕でした。

11月20日（夜の部）は会員ならびにご家族含めて26名のご参加でした。

（相田 實・記）